

文化のチカラ

第9回
させぼ文化マンス
楽園祭

VRクリエイター
田名部康介



楽園祭

VOL 15
2021 Winter



おきゅたんbot
宝来すみれ

特集に登場した「楽園祭」や「VR(バーチャルリアリティ)」について、触れられるアーカイブ動画をご紹介します!

第9回させぼ文化マンス楽園祭 リアル×バーチャル アーカイブ映像

昨年、11月、2日間にわたりアルカス SASEBOとバーチャル商店街(渋谷×佐世保)を舞台に開催された「楽園祭」のアーカイブ映像です。リアルとバーチャルが交差する様子を是非ご覧ください!
(※一部音楽については差し替えを行っています)



楽園祭公式 HP

公式HP中段リンクより、2日間、4種類のアーカイブ動画をご覧いただけます。



短編映画 Vtuber(ブイチューバー)渚

「渋谷短編映画祭CLIMAXat佐世保」より、VR(バーチャルリアリティ)空間で活動する、Vtuber(ブイチューバー)を目指す元アイドルの女の子を追いかける短編映画をお届け!これを見ればVRの世界がわかる!?! 2020年の国内映画祭で数多くの賞を獲得した作品です。



Vtuber渚



こちらも
チェック!
CHECK

毎月、市内文化施設のイベントカレンダーを佐世保市ホームページ、Facebookページ「文化のチカラ」に掲載しています。

おきゅたんbotに聞く!

楽園祭の ここがすごかった!

VR(XR)は
スマホやPCみたいで、
未来の社会であたりまえに
使うものになると思って
活動してきますー!
楽園祭はその始まりを
作るような
素敵なイベントでした!



おきゅたんbot / 宝来すみれ

VRガイド・VTuber、VR内外の文化を伝え、記録、発展させることを目指し、2017年から活動。日々進化を続けるVR世界や各種イベント、アプリなどを紹介配信している。



1 日本初!? 現実とのセッションが すごかった!

6時間×2日間。こんな大きな規模で、現実のイベントとVRがリアルタイムで連携したのは日本初だったんじゃないかな! WEB参加した人も、実際の音楽フェスのように、長く滞在して...私も初めて体験した新しい風景でした。

2 プロ 顔負け!? 佐世保の出演者が すごかった!

一般の佐世保市民のみならずで作り上げる文化祭...と聞いていたけど、ダンス、ジャズ、演劇...パフォーマンスのレベルが高すぎる! これには全国からVRで来たみんな(実は一流のクリエイターさんが多かったんだけど...その人たち)、お世辞抜きにびっくりしてたよ!

3 家にいながら 観光!? みんな佐世保好きに なっててすごかった!

私も含め佐世保から遠く離れた人たちが、ライブ配信やVRを通じてイベントにやってきて、佐世保の街を歩いて、交流して、好きになって。いままで出会うことなかった人がつながったのも面白いし、未来に向けて刺激を受けた人もいっぱいいたんじゃないかな。ノリで佐世保のオリジナルキャラを作って参加する方がいたり、一緒にずっと踊り続けたり、みんなを虜にしちゃった佐世保ってすごいなあ!



02



と関わりたくない」という人っていないと思うんです。僕も引込み思案で、人付き合いが苦手と思いついていたんですが、VRでは、年齢や職業、外見などを気にしなくていいから、より本質的な自分が出てくるんです。僕は、人を喜ばせることが好きだったんですけどVRの活動を通じて気づきました。その感覚は、現実を生きている僕にもすごくいい影響を与えてくれるように思います。

楽園祭、いかがでした?

ローカルなお祭りや世界中からアクセスできるVRが、つながるという可能性をすごく感じました。たとえば、楽園祭に参加したVRバンドは、日本各地どこか、海外から参加してくれた人もいたんです。世界中バラバラの場所に住んでいる人たちが、このイベントがなければ出会うことなかったかも知れない佐世保という街に出会って、その街の人たちと一緒にイベントを作り上げた。それを世界中の人に発信していた。そう考えるととてもワクワクしますよね。もし次回も関わらせてもらえるなら、リアルとバーチャル、双方のやりとりの場面をもっと増やしてみたいです。



第1ラウンド
Round 1

VS VR世界の 住人



田名部さんの
アバター

2020年、新型コロナウイルス感染症拡大により、人々の活動は大きく制限され、先の見えない日々が続きました。そのような中「文化」はどのように「コロナ」に立ち向かっていったのでしょうか。今号では、「コロナ下でチャレンジを続ける人たち、そして彼らが見据える文化の未来に迫ります。」

「VRは、現実だ!」

VR初体験は5年くらい前のことです。もともと、パソコンやジェット(目新しい道具が好きで、当時4万円くらいかな...VR体験ができる頭につけるゴーグルが発売されたとき、映画「マトリックス」の世界が体験できる!って思っていました。ですから、蕎麦屋とは何の関係もありません(笑)。その頃はまだ日本人のユーザーも少なく、外国人だらけ。日本人はみんな顔見知り、町内会みたいなコミュニティができてました。

蕎麦屋さんが、なぜVRの世界に?

タナベさんが考えるVRの魅力って?

もともと海外旅行が好きだったんですが、VRの中で、外国の人と出会えたり、その人たちに日本の文化を面白おかしく伝えたりするのが楽しくてハマっちゃいました。そのためにVRの中で色んなグッズを作ったりして。現実ではお金とか、技術とか、スペースの問題で簡単には作れない、例えば料理や道具、なんなら美術館やミュージアムパークだって、VRの世界だとなんでも作れちゃうんですよね。表現の場としても便利なので、一芸に秀でたクリエイターやアーティストの方も多くて、お互いの趣味や得意技を共有しながら、世界中に友達ができる、最高です。

田名部 健一



KOUSUKE TANABE

VRクリエイター。東京で「手打ちそば 田奈部」を営む傍ら、趣味ではじめたVRで才能を発揮。VRの世界に、人々が生き生きと活動する独自の「場」を作り続けている。「楽園祭」では、渋谷と佐世保を再現したイベント空間を作り上げ、訪れた人々を驚かせた。

VRの世界にハマると現実がイヤになって引きこもりになっちゃいませんか?

マトリックスはまさにそんな世界感でしたよね。でも実際僕が感じているのは、むしろVRと現実がつながっていく、という感覚です。例えば、一人暮らしが寂しくて、VRのヘッドセットをつけたまま、修学旅行みたいに友達と横にいる気配を感じながら寝るという人たちもいます。完全にVRに引きこもるってわけでもないんですよね。自分はこの世の中に「本当に人

「ダンスがないと自分じゃないって実感」



「ダンスフェスティバルspace mini」



にしむら こころ
西村心里さん
(商業高校3年)



第2ラウンド

Round 2

VS

高校生



そうだりりあ
早田麗莉亜さん
(佐世保西高2年)

のむら いぶき
野村生樹さん
(佐世保北高1年)

にしかわ しほ
西川志保さん
(佐世保北高1年)

「例年より大きなステージ！みんなカッコよかった。」



「書道パフォーマンス」



いしかわ ゆづき
石川柚月さん
(西海高校2年)

ぶっちゃけどうだった？
コロナ下の楽園祭、ウラト〜カ!

VRとコラボレーションし、初の生配信を行った今年の楽園祭。高校生の活躍も目立ちました。そんなイベントの総合司会を行った高校生3人のリアルな反省会をお届け。

早田：楽園祭、おつかれさまでしたー！
西川：話をもちろってから本番まで1か月なかったけど、無事に終わってホッとした。
早田：ところで、なんで参加しようって思ったの？
野村：俺は、最初からシンプルに「やりたいう」って思ったよね。
「これ、佐世保を動かせるヤツじゃん」って。
西川：実際動いた？
野村：2ミリくらい！(笑)
早田：サポートしてくれたGOITOさんのおかげだね！
野村：自分もラップに興味があったから、一緒にステージ上がれて感動した。



早田：VRとのリアルタイムでの連携もすごかったけど大変だった！余裕がなくて、上映された映画の中で、Vtuber役の人が怒られているのを見て、一瞬ホントに怒られている場面が生中継されているのかと勘違いしてドキドキした(笑)。あと、「ここから、させばから」の子どもたちはかわいかったー！

「久しぶりのお客さんからの拍手うれしかった！」



「東翔高校吹奏楽部」



ほりおなつき
堀尾菜月さん
(東翔高校2年)

西川：かわいかった。あと、「佐世保の物語」のパフォーマンスソングも耳から離れなくなって(笑)。そして、全国大会に行くはずだった東翔高校は、圧巻だったね。本番前、舞台袖で、先生が気合入れて、激を飛ばしてたからこっちも緊張しちゃったけど結局…
3人：先生が歌うんかい！(笑)



西川：私も決まった後からドキドキしてどうしよう！ってなってただけで、GOさんのおかげで楽しみながらやれた！パフォーマンスはどうだった？
早田：やっぱりダンス(space mini、よさこい)は、カッコよかった！商業高校の吉井町直谷城の研究発表も、3か国語でやってて、すごいなって。友達のまた違う一面が見れたな。

サブMC GOITOさん



「先が見えない中、みんなでやり遂げた達成感がすごかった。」



「あい(愛)する?どう(動)する? こう(行)する SASEBO」



おだしゆり
小田朱理さん
(商業高校2年)

野村：面白かったよね！楽園祭、家族のリアクションとかどうだった？
早田：お父さんが当日のYouTubeアーカイブ配信を職場の人たちに見せて回ってるらしくて…嬉しいけど恥ずかしい。
西川：小6の弟が交流スクエアのさせぼ競輪の缶バッチ作りコーナーにハマっていた！あと謎のゴリラのゆるキャラが歩いてたりして、サウナも覗いたよ。チーズハットクもおいしかった！
野村：知らない間に、外も楽しんでたんだ(笑)



野村：ビッグバンドジャズもよかったよね。その中に佐世保のJ.U.J.U.を見た！書道パフォーマンスもコロナの中で相当エグい努力したんだろうなあって感じたよ。
西川：ステージ袖から本番を見るのも新鮮だった！日舞のチームが、出番の前に励まし合う姿とか見てキュンとしちゃった。



重松壮一郎



1973年 大阪生まれ、横浜育ち。佐世保市在住。早稲田大学社会科学部卒。クラシック、ロック、ジャズなどを経て、即興演奏とオリジナル曲を主体とした独自のスタイルで、全国・海外にて年間150回近いライブを行う「旅の音楽家」。
<http://www.livingthings.org>



Shichiroh Shigematsu

届ける

僕にとって、ピアノや音楽、文化は、言葉にできない自分の気持ちを表現できるとても大切なものです。そして、これまで「生で演奏を届ける」ことを第一に活動してきたので、年間150本ほど行っていたライブが自由に行えなくなってしまう状況については、正直とまどいもありました。ただその後、冷静にまわりを見てみると、少なくなってしまった生演奏について相対的に価値が上がり、その素晴らしさを見直そうというポジティブな変化も生まれているように思います。また、コロナ後、動画投稿サイトを利用したライブの生配信にチャレンジしているのですが、お客さんのリアクションも含め、想像以上の手応えを感じました。デジタルツールに乗せて演奏の「生」の感覚を、距離を越えて届ける、共有することも可能なんだ、ということも新たな発見でした。自己表現からスタートした僕の活動ですが、お客さんにこんな世の中のムードの中、どのような価値を届けられるか、ということも今改めて考えさせられたことのひとつ。文化マンスにおける子どもたちとオリジナルの楽曲、CDを制作し、発表するプロジェクト「みんなのでつくろ」子どもコンサートも大きな反響をいただきましたし、コロナ禍の活動で、文化



Akané Collective 花とピアノのコンサート

とき：2021年2月14日（日）
 会場：アルカスSASEBO イベントホール
 時間：開場13:00 開演13:30
 出演：ヒームストラ舞（フラワーアート）
 重松壮一郎（ピアノ）

CD「ここから させばから」
<https://mizunoe.theshop.jp/items/35691202>



芸術はそれを表現する人、受け止める人の双方の生きる力や、未来への希望を生み出す大切な存在であることを強く実感しました。翻って、佐世保に、文化、芸術を仕事にして、食べている人はまだまだ少ないと思いますし、今回、僕自身、改めてその厳しさも痛感しています。それでも、僕は「届ける」ことを続けていきたいし、そんな人が佐世保の中にも増えてほしいな、と考えています。

アーティスト イベントター



VS



コロナが広まる中、文化を担うアーティストやイベントターは何を感じ、考え、行動していたのか。文化マンス楽園祭にも参加した2人に話を聞きました。

私はジャズと佐世保が大好きで、演奏活動や、佐世保JAZZなどのイベント運営を続けてきました。そんな私にとって、昨年大きな出来事が2つありました。1つ目は、屋外フリーライブ「海辺のコンサート」をはじめたこと。2つ目は、歴史あるJAZZバー「いーぜる」の経営を引き継ぐことになったことです。そして、実はどちらもコロナ抜きには語れないんです。佐世保は「JAZZの街」と喧伝されていますが、正直私は、名前と実態が合っていないな、とかねてから感じていました。もちろん、かつて日本中からジャズマンが集まってきたという歴史や、これまで

の先人たちの取組みは素晴らしいものですが、現在、一般の市民のみならず、ジャズに気軽に触れている環境にある、とは思えなかったからです。敷居を高く感じさせてしまう面もあるのですが、何より触れられる場所自体が少ない。ですから、いくつかいるんが、行き交うみなと周辺でジャズをやりたいな、と構想を温めていました。屋外でのライブには場所選定や騒音など色々な課題がありますが、「佐世保JAZZをはじめ屋内でイベントができない今が実行の時」と佐世保JAZZの名前を冠し仲間と挑戦した結果、新たな佐世保の風景を作り出せ

続ける

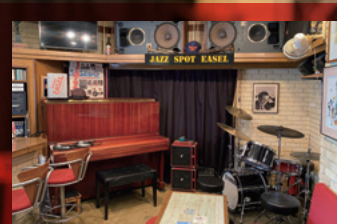
Razutaka Maeda

前田和隆



1961年 佐世保生まれ。市内で会社経営の傍ら、佐世保JAZZ実行委員会実行委員、佐世保を代表するジャズバー「いーぜる」のオーナーを務めるなど、佐世保のジャズ文化を広める活動を行っている。自身も演奏を行うギタリストの顔も。

たのではないかと思います。また「いーぜる」については、代替わりのタイミングを迎えたのが飲食店に厳しいタイミングでなければ、多くの引継ぎ手が現れたのではないかと思います。私も躊躇しましたが、先代お二人が繋いできたこのお店の歴史をここで絶やすわけにはいかないと決心。お店には、新たに大規模な換気装置やエアカーテンを導入し、安心してジャズライブを楽しめる環境づくりに努めています。振り返ればイベント、場づくりどころも変化する時代に合わせてちゃんと「続ける」ことでジャズを本場の佐世保の文化にしていきたい、その決意を新たにしました。



ジャズスポット いーぜる

住所：佐世保市下京町3-1ラテスビル2F
 電話：080-9265-9330
 営業時間：18:00～深0:00 (OS23:30)
 店休日：月曜